

シラバス

指定番号 193

商号又は名称：介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をイメージできるようになる。 ・介護職の仕事と現場の種類が理解できる。 ・介護保険制度でのサービス提供までのプロセスが理解できる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	2	2	—	《講義》 介護保険サービス（介護保険認定について、居宅・施設サービス種類）介護保険外サービスについて 《グループワーク・演習》 各サービスの中で知っていること、イメージや印象をグループディスカッション
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	—	《講義》 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅、施設の多様な現場でのそれぞれの仕事内容を理解する。 ・施設見学（施設・通所）で現場職員の動きをみて、実際のケア内容を具体的にイメージする。 ・介護保険利用までの流れや、ケアプランに位置づけられたそれぞれのサービス量や提供内容、地域社会で資源の連携について理解する。 《現場見学》 通所リハ・通所介護、入所施設見学と訪問介護スタッフの業務説明 《グループワーク・演習》 それぞれのサービスの長所・短所を考える。 生活と介護について考える。 見学後の訪問・施設・通所などでの提供されるケアについて考える。
(合計時間数)	6	6	—	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称: 介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名		(2) 介護における尊厳の保持・自立支援		
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。 		
項目番号・項目名	時間数	うち通学学習時間数	うち通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	3.5	1.5	2	《講義》 1) 個人として尊重、アドボカシー、エンパワーメントの視点、「役割」の実感、尊厳ある暮らしや利用者のプライバシー保護について理解する。 2) 介護分野における ICF につて理解する。 3) QOL の考え方、生活の質について理解する。 4) ノーマライゼーションについて理解する。 5) 身体拘束禁止・高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援について理解する。 6) 個人情報保護法、成年後見人制度、日常生活自立支援事業について理解する。 《ワーク・演習》 ・個人ワーク「尊厳とは？」グループワーク「介護現場で尊厳の侵害」にあたる行為を考える。 ・演習 事例を元に ICF を記入の上、個人ワークを実施する。 ・身体拘束の実体験の感想をディスカッション形式で行う。
② 自立に向けた介護	3.5	1.5	2	《講義》 1) 自立、自立支援、残存能力の活用や動機と欲求、意欲を高めるための支援、個別性と個別ケア、重度化防止に向けた取り組みを理解する。 2) 介護予防の考え方について理解する。 《グループワーク》 ・ベッド上で寝たきりになると起こりうる症状をディスカッション形式で行う。
③ 人権啓発に係わる基本知識	2	2	—	《講義》 ・人権について ・人権への取り組み ・身近な人権について理解する。
(合計時間数)	9	5	4	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称：介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれを一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することの重要性を理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	《講義》 1) これからの介護環境における訪問介護と施設介護の違いや、地域包括ケアでの介護の変化を理解する。 2) 介護の目指す基本視点を理解し、根拠ある介護の提供や多職種チームについて理解する。 3) 多職種との相互理解とチームケアにおける介護職の役割を理解する 《通信学習課題の概要》
②介護職の職業倫理	2	1	1	《講義》専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシー保護・尊重について理解する 《演習》 「倫理」についてグループディスカッションを行う。 《通信学習課題の概要》
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	《講義》事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザードについて理解する。 感染の原因と経路「感染」に対する正しい知識について理解する。 《演習》 ひやりはっと事例の DVD を見ながら危険箇所の確認と予防策をグループディスカッション
④介護の安全	1	0.5	0.5	介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレス・マネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本と感染対策について理解する。 (実技) 感染予防の実技 嘔吐物の処理・エプロン・マスク・手袋の外し方を実践し感想をディスカッション
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	手洗い機械、エプロン・マスク・手袋・ビニール袋・新聞紙・偽嘔吐物・ひやりはっと DVD・パソコン・プロジェクター・スクリーン (株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称：介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度・障がい者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念を理解する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障がい者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	3	0.5	2.5	《通信学習》 1) ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進について理解する。 2) 保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順について理解する。 3) 財政負担、指定介護サービス事業者の指定について理解する。
②医療との連携とリハビリテーション	2	0.5	1.5	《講義》 1) 医行為と会議、訪問看護、施設における看護師と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念について理解する。
③障がい者総合支援制度及びその他制度	4	0.5	3.5	《講義》 1) 障がいの概念、ICF について理解する。 2) 介護給付・訓練などの給付の申請から支給決定までについて理解する。 3) 個人情報保護法、成年後見人制度、日常生活自立支援事業について理解する。
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称： 介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮できる。 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解する ・介護職一人ひとりが観察と記録の重要性が理解できる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	<p>《講義》</p> <p>1) 相手のコミュニケーション能力に対して理解や配慮、傾聴共感の応答について理解する。</p> <p>2) 言語的コミュニケーションの特徴について理解する。</p> <p>3) 利用者の思いを把握し、私欲の低下の要因を考える。利用者の感情に共感する。家族の心理的理解、いたわりと励まし、信頼関係の形成について理解する。</p> <p>自身の価値観で家族の意向を判断し、非難することがないようにする。</p> <p>アセスメントの手法とニーズとデマンドの違いについて理解する。</p> <p>4) 視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症、構音障害、認知症など各々に応じたコミュニケーション技術について理解する。</p> <p>《演習》</p> <p>視覚障害・失語症のコミュニケーションについて、体験を通してディスカッションする。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	<p>《講義》</p> <p>1) 介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録について理解する。</p> <p>介護に関する記録の種類、個別援助計画、ヒヤリハット報告書、5W1Hについて理解する。</p> <p>2) 報告、連絡、相談の留意点について理解する。</p> <p>1) 会議、情報共有の場、役割の認識の場、ケアカンファレンスの重要性について理解する。</p> <p>《演習》</p> <p>事例を通し、ケースカンファレンスの実施</p>
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称： 介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	① 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。 ② 加齢・老齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について理解できる。 ③ 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	《講義》 ・防衛反応（反射）の変化、喪失体験について理解する。 ・身体機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下、筋・骨・関節の変化、体温の維持機能の変化、精神的機能の変化と日常生活への影響について理解する。 《演習》 喪失感についてのグループディスカッション
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	《講義》 ・骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛について理解する。 ・循環器障がい（農国即、脳出血、虚血性心疾患）循環器障がいの危険因子と対策、老年期うつ病症状、誤嚥性肺炎、病状の小さな変化に気づく視点、高齢者は感染症にかかりやすいについて理解する
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称：介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	① 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則が理解できる。 ② 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について理解できる。 ③ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障がいの違いについて理解できる。 ④ 認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性、およびそれに影響する要因が理解できる。 ⑤ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ⑥ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ⑦ 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。 ⑧ 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知用を取り巻く状況	1	0.5	0.5	《講義》・パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点（できることに着目する）理解する。
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	《講義》 1) 認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、治療、薬物療法、認知症に使用される薬について理解する。
③ 認知症に伴うこころと体の変化と日常生活	2	1	1	《講義》 1) 認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（B P S D）、不適切なケア、生活環境で改善するということを理解する。 2) 本人の気持ちを推察する、プライドを傷つけない、相手の世界に合わせる。失敗しないような状況をつくる、すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、身体を通じたコミュニケーション、相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、認知症の進行に合わせたケアについて理解する。
④ 家族への支援	1	0.5	0.5	《講義》 1) 認知症の受容過程での援助介護負担の軽減（レスパイトケア）を理解する。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。

- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称：介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	① 障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できる。 ② 障がいの概念と ICF について概説できる。各障がいの内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ③ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1	0.5	0.5	《講義》 ・ ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方について理解する。 ・ ノーマライゼーションの概念について理解する。
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援などの基礎的知識	1	0.5	0.5	・ 視覚障がい、聴覚、平衡障がい、音声・言語・咀嚼障がい、肢体不自由、内部障害について、理解する。 ・ 知的障害について、理解する。 ・ 統合失調症・気分（感情障がい）・依存症などの精神疾患、高次脳機能障害、広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害について理解する。
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	—	・ 障がいの理解・障がいの受容支援、介護負担の軽減について理解する。 【演習】 各障害の家族の困り事・その支援に対してグループワーク
(合計時間数)	3	2	1	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称：介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 基礎知識の学習			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学 習 時間数	うち 通信学 習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得することができる。 ・利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。 			
① 介護の基本的な考え方	4	3	1	《講義》 1) 倫理に基づく介護 (ICF の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) について理解する。 2) 法的根拠に基づく介護について理解する。
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	3	1	《講義》 1) 学習と記憶の基礎知識について理解する 2) 感情と意欲の基礎知識について理解する 3) 自己概念と生き甲斐について理解する 4) 老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因について理解する 5) 心の持ち方が行動に与える影響について理解する。 6) からだの状態が心にあたえる影響について理解する
③ 介護に関するからだの仕組みの基礎的理解	5	4	1	《講義》 1) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について理解できる。 2) 骨・関節・筋に関する知識、ボディメカニクスの活用について理解する。 3) 中枢神経系と体性神経に関する基本知識について理解する。 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識について理解する。 4) こころとからだを一体的に捉えるということを理解する。 5) 利用者の容姿の普段との違いに気づく視点について理解する。
④ 生活と家事	5	4	1	《講義》 1) 生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性、能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観について理解する。 《演習》 個々の生活の違いについてグループワーク
⑤ 快適な居住環境整備と介護	4	3	1	《講義》 1) 家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与について理解する。 《演習》 福祉用具活用方法
⑥ 静養に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3	2	1	《講義》 1) 身体状況に合わせて衣類の洗濯、着脱、身支度、整容行動、洗面の意義・効果について理解する。 《演習》 整容に関する自助具の活用方法
⑦ 移動・移乗に関するこころとからだのしくみと生活支援技術	9	8	1	《講義》

ろと体のしくみと自立に向けた介護				<p>1) 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法について理解できる。</p> <p>2) 利用者の自然な動きの活用について理解する。</p> <p>3) 残存能力の活用・自立支援について理解できる。</p> <p>4) 重心・重力の動き、ボディメカニクスの基本原理について理解できる。</p> <p>5) 移乗介助の具体的な方法について理解できる。</p> <p>6) 移乗介助、褥瘡予防について理解できる。</p> <p>《演習》 シーティング・ポジショニング・車椅子介助方法、歩行介助装具の装着などの実践</p>
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	3	1	<p>《講義》</p> <p>1) 食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識について理解できる。</p> <p>2) 低栄養の弊害、脱水の弊害について理解できる。</p> <p>3) 食事と姿勢、咀嚼、嚥下のメカニズムについて理解できる。</p> <p>4) 空腹感・満腹感・好み、食事の環境整備、口腔ケアの定義について理解できる。</p> <p>5) 食事に関する福祉用具の活用と介助方法について理解できる。</p> <p>6) 誤嚥性肺炎の予防について理解できる。</p> <p>《演習》 食事介助の実践、水分補給の種類、口腔ケア方法の実践</p>
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	9	8	1	<p>《講義》</p> <p>1) 羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認、全身清拭についての理解ができる。</p> <p>2) 目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部洗浄、足浴・手浴・洗髪について理解できる。</p> <p>《演習》 入浴介助の実践</p>
⑩ 排泄に関連したところと体のしくみと自立に向けた介護	4	3	1	<p>《講義》</p> <p>1) 排泄について理解できる。</p> <p>2) 身体面での意味、心理面での意味、社会的な意味について理解できる。</p> <p>3) プライド・羞恥心・プライバシーの確保について理解できる。</p> <p>4) オムツは最終手段でオムツの使用の弊害について理解できる。</p> <p>5) 排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、便秘の予防について理解できる。</p> <p>6) 排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連について理解できる。</p> <p>7) 一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法について理解できる。</p> <p>《演習》 おむつ交換、トイレ介助、ポータブルなどの排泄ケアの実践</p>
⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	2	1	<p>《講義》</p> <p>1) 安眠のための介護の工夫について理解できる。</p> <p>2) 環境の整備、安楽な姿勢・褥瘡予防について理解できる。</p>
⑫ 死にゆく人に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	9	8	1	<p>《講義》</p> <p>1) 終末期ケアについて理解できる。</p> <p>2) 高齢者の死に至る経過しについて理解できる。</p> <p>3) 臨終が近づいたときの兆候と介護について理解ができる。</p> <p>4) 介護従事者の基本的態度、他者職種間の情報共有の必要性について理解できる。</p> <p>《演習》 あなたが望む「最期の在り方」についてグループワーク</p>
⑬ 介護過程の基礎的理解	5	5	0	<p>《講義》</p> <p>・介護過程の目的・意識・展開について理解できる。</p> <p>介護課程のチームアプローチについて理解できる。</p> <p>《演習》 事例を通して介護計画の作成の個人ワーク、発表を通してのディスカッション</p>

⑭ 総合生活支援技術の演習	7	7	0	《講義》 1) 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 2) 事例は高齢者（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から②事例選択して実施 《演習》 事例を通した技術の演習
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD ベッド、車椅子、介護食（とろみ剤）、入浴セット、オムツ、シーツ、ポータブルトイレ、尿器、エアマット、装具、杖、衣類、タオルケット
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 193

商号又は名称：介護老人保健施設 悠々亭

科目番号・科目名	(1) 振り返り			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者の生活の視点に共に居る」と言う認識を持ち、身だしなみ、言葉使い、礼節を心がけながら業務での基本的態度の視点をもって実践が行える。 ・研修を通し学んだこと、今後継続して学ぶべき課題を明確にすることができる。 ・利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点が再認識できる。 ・介護の仕事内容や働く現場、事業所の具体的イメージが理解できる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	3	3	—	《講義》 1) 研修を通して学んだことを言語化できる。 2) 今後継続して学びたいことを明確に言語化できる。 3) 利用者に応じ、根拠に基づいた介護についての要点が理解できる。 4) チームアプローチの重要性が理解できる。 《演習》グループワーク ① 利用者と接するときに気をつけること、 ② 介護に携わる時に大切にしていきたい事柄、又は足りないと思われる事 ③ 研修全体を通して分からないこと ④ 介護施設などで起こる虐待のニュースを通して何故このようなことが起こるのか ⑤ 根拠に基づく介護について、チームアプローチの必要性
① 就業への備えと研修終了後における実例	1	1	—	《講義》 1) 継続的に学ぶべきことと研修体系が理解できる。 2) 実際の介護現場の実情を理解し職場への早期適応に向けた課題が理解できる。
(合計時間数)	4	4	—	

使用する機器・備品等	(株)QOL サービス 発行 介護職員初任者研修テキスト DVD
------------	----------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。